

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900055	事業の開始年月日	平成19年7月1日
		指定年月日	平成19年7月1日
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホーム みんなの家 横浜小机		
所在地	(〒222-0036) 横浜市港北区小机町2170 045-473-6667		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

横浜線小机駅から徒歩5分とかからない便の良さ、周りは畑が多く自然豊かな場所にホームがあります。窓からは白鷺やムクドリ等色々な鳥が飛んでくるのが見え、四季を感じながら日々穏やかに過ごしていただける様、職員一同お一人お一人の健康と安全に配慮しつつ、出来る事はいつまでも続けられるようご支援して参ります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年10月27日	評価機関 評価決定日	平成22年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点></p> <p>◇職員全員が参加し、事業所の理念『近隣住民との交流を大切に、アットホームで、笑顔のあふれるホーム作りを』を作成した。全体会議でこの理念を確認しながらサービスの向上に努めている。</p> <p>◇利用者に対し、年長者であるとの尊敬の念を持ち、言葉遣いに気を付けてケアを行っている。</p> <p><事業所が工夫している点></p> <p>◇毎月の事業所のテーマを作成し、全体会議で決定して、テーマに沿って業務を行っている。今月のテーマは「整理・整頓・清潔」である。</p> <p>◇地域との付合いを大切に、地域住民の責任として、利用者が散歩に出掛けるときには、ゴミ袋を持参しゴミ拾いを行っている。職員も出勤時にゴミ拾いを実施している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	みんなの家 横浜小机
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割について勉強会を行ってから職員全員で新しくホームの理念を作成した。	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が参加し事業所の理念を作成した。全体会議でこの理念を確認しながらサービスの向上に努めている。 昨年度の外部評価の目標達成計画は達成した。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事のご案内を頂くと参加出来るものは参加するようにしている。町内から依頼されるしめ縄張りも協力している。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会長に避難訓練等いろいろ相談している。 利用者が散歩に出掛けるときは、ゴミ袋を持参しゴミ拾いを行っている。職員も出勤時にゴミ拾いを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との更なる連携のために、自治会長や地域包括センターと相談し、ボランティアの受け入れや地域との交流などの推進を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や民生委員などが来所された時は利用者様と話をしたり、こちらから状況を説明したりして、ご理解を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に会議を開催し、ホームの状況報告を行い、評価や御意見を頂いている。御意見は可能なものはサービスに反映するようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の無断外出対策が議題とされ、解決策として、利用者が住所・ホーム名・地図を記入したカードを持参することを決定した。利用者名は個人情報の問題で記入しない。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険や生活保護に関する相談や連絡を密に行っている。又、地域包括センターにも連携を取り、相談にのって頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> 港北区役所担当者が介護保険更新時に確認のため来所した折、意見交換をしている。 地域包括センターには介護保険に関する相談を行っている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については毎月1回身体拘束廃止委員会を開き、委員を中心に職員全員が拘束について学ぶ機会を持ち、身体拘束をしないケアに取り組む努力をしている。	・身体拘束委員会は全体会議の後開催している。意識していないことが、拘束に繋がることを会議で確認している。 ・玄関は不審者の侵入防止のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会で委員を中心に防止に努める研修会を開き、現場に持ち帰り、伝達研修行う事により、啓蒙を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開く事により、学ぶようにしている。必要に応じて制度の利用をお伝えするようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時などの際は時間をかけ丁寧に説明をするようにしている。疑問や質問は随時お受けするようして、不安なく理解納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を隔月開催し、忌憚ない意見を頂き、運営に反映させるようにしている。	・2か月毎に開催している家族会で、利用者に対する職員の不用意な言葉かけが問題として提議された。職員の全体会議で取り上げ改善について話し合われた。	

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議と各フロア会議を開き、職員の意見、提案を受け、皆で検討してサービス向上に努めている。	・居室の掃除が行き届かないとの意見があり、掃除の手順を変えて居室の清掃を第一にする事にした。 ・利用者の状況の変化を共有し、入浴介助の方法を適合させるようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業状況は人事担当者が管理している。年2回の人事考課を通して職員ひとりひとりの目標設定や、評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修は回覧にして職員全員が交代で参加できるような機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市高齢者グループホーム連絡会に入会して講習会や勉強会で交流できる機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は職員全員で本人の様子に注意を払い、声掛を頻回にして孤立しない配慮を行っている。又、意向をケアプランに取り入れ安心を確保するための関係作りに努めている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望や不安に対し出来る限り、話を伺い相談を受け、信頼して頂ける様真摯に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御入居前に御本人と面談を行い、グループホーム利用がその方にとって適切なのかよく検討し、状況に応じては在宅サービスなどを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士、職員との関係作りを大切にしていこうようにしている。目上の方に対する敬意を忘れないよう注意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御入居の時、御家族には家族の存在の大切さをお話している。面会のお勧めや、来所できない家族にはお電話や毎月送る一言通信で御様子をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との外出や面会も自由に行っている。面会の問い合わせは本人の気持ちを優先している。	・以前住んでいた近所の方が訪問して来る利用者がある。 ・家族が同行し、馴染みの美容院に行ったり、墓参をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的や状況に応じて度々席替えを行い、利用者同士の関係がよりよくなるよう努めている。トラブルが起きた時は速やかに職員が間に入り、孤立を避けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に帰られる方の場合には、利用できるサービスの情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	時間をかけてお話を聞くようにしている。話の内容が理解できない時は、希望を推測して出来る限り、本人の意向を把握するようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は居室担当として、利用者との信頼関係を構築し、居室の管理、誕生日会の企画を行っている。 聞き取りの不自由な利用者との会話は筆談で行っている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から沢山情報を集め、習慣や好みを把握し、これからの生活に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送りノートの活用で本人の状態を把握している。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングを定期的又は必要時行い、ケアプランにつなげている。問題点が起きた時は家族に電話や来訪時お話しして、御希望を伺うようにしている。	・ケアプランの見直しは6か月ごととしているが、変化があればその都度カンファレンスを行っている。 ・モニタリングは利用者の状況を連絡ノートに記入し職員が共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のケアを個別生活記録に記録し、ケアプランに沿った実践を行い、情報を職員間で共有しアセスメントとして活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の日々の状態を把握しニーズに対応している。シニアセラピー、訪問マッサージなどのサービスを実施し御希望に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会会長や、地域包括センターから情報を頂き、参加するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回の往診の他、随時相談や指示を受けて適切な医療をうけている。	・かかりつけ医として事業所の指定医と契約し、内科医・歯科医は月2回、歯科衛生士は月4回の往診を行っている。内科医は必要があれば随時いつでも往診してくれる。	

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連絡ノートに個別情報を詳しく記入し、週一回の訪問時にそれを基に看護を受け、指導を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方のお見舞い時、ナースステーションに寄り情報を入れている。家族と担当医の面談時も家族から依頼があれば立ち会い、必要時病院に電話で連絡をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時御家族に説明を行い御理解を頂いている。終末期ケアは医療との連携を第一にホームでの生活が継続出来るよう支援していく。	・利用者が重度化した場合には訪問診療医、看護師、介護スタッフが連携し、利用者の症状を的確に把握することになっている。 ・看取りは医療面のバックアップがなければ不可能で、現在は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊による心肺蘇生法の講習や、事故発生対応のマニュアルを備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地域の方の協力は町内会会長を通してお願いしている。	・消防署長が地域防災協定案の叩き台を作成してくれることになり、自治会長と協議する。11月の消防訓練には地域の人が見学に来ることになった。	

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者の指導の下、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	・トイレに誘う際は「ちょっと行きましょうか」と耳元でさりげなく言葉かけをしている。 ・目上の方への言葉遣いを常に心がけ、不適切な場面があればその場で指導し、職員会議でも確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努め、気持ちに出来るだけ沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に何をしたいかお聞きし、その方のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る物も自分で選んでいただき、身だしなみに関心が向くよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いが可能な方は職員と一緒に準備、片付けをされている。障害のある方も座ってできる事をしてくださる。	・調理への参加は難しいが、個々の能力に応じて配膳や片付けをしている。 ・季節の行事食や職員手作りのバースディケーキなどを提供し、職員が会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表で必要量の確保に努めている。水分摂取が少ない方は摂りやすい形で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声掛けして見守りや介助を行い、欠かさず行っている。歯科医師及び、歯科衛生師が定期的に訪問して口腔ケアを指導してくれている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄状況を把握し、声掛けや誘導を行うことにより、自立した排泄を支援している。	・チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンやサインを把握してタイミングよくトイレに誘い、排泄の失敗やおむつの使用を減らすように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、個人の排便状況を把握し、医師の処方薬によるコントロールや、毎日朝牛乳を飲んで便秘予防するなど支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、御希望をお聞きして入浴していただいている。	・週2～3回を基本に、好みの曜日、時間帯に入浴の支援をしている。 ・浴室に暖簾をかけ、季節のゆず湯や菖蒲湯だけでなく毎回入浴剤を使用して温泉気分を楽しめるように工夫している。	

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせて昼寝や夜間の就寝時間も自由に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による処方薬の説明を受けている。服薬後体調に変化があったときは、医師に相談して指示を受けている。すべて記録し、職員全員が情報を共有出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の興味や楽しむ事柄を情報から知り、ここでの生活に生かしていく支援をしている。役に立ちたい気持ちが強い方にはお手伝いをして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩は職員が対応しているが、遠出や外泊は御家族にお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲は自然に恵まれ、草花を楽しみながら散歩に出かけている。 ・家族と外食や買物に出かけている。 ・玄関前のスペースにベンチを置いて外気浴やお茶を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体力や職員体制などから外出支援は十分でない状況ですが、外気浴や散歩、買物やドライブなど気分転換が図れる機会が多くもてるように、職員間で協力し工夫されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持ちお金を管理できる方や、こちらの預かり金で管理するなど様々だが、週一回くる移動パン屋ではほとんど全員が外に出て、好きなパンを買われている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書を出してあげたり、電話を取り次いだり、かけて差し上げたり支援している。個人で携帯電話を持っている方には充電など気をつけてあげている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとフロアの飾りつけを工夫している。毎日清掃し、清潔感のある居住空間に配慮し、特にトイレは臭いがいいようにしている。	・清潔さを大切にし、観葉植物や花、季節を感じさせる飾り付けをして心地よく過ごせるよう配慮している。食事中は落ち着ついて食事できるように静かなクラシックを流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えを定期的に、又随時行うことにより偏らない組み合わせやトラブルを避けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で色塗りした月ごとのカレンダーを貼ったり、御家族の写真や手作りした作品など飾っている。仏壇を置かれている方は、毎朝お祈りしていらっしゃる。	・一人ひとりの居室は、タンス、机、テレビ、仏壇、位牌、家族の写真、ぬいぐるみなど、各々の馴染みの家具や好みの品で居心地よく過ごせるように整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のところに名札を掛け、人によっては別に大きく書いた名前を貼っている。カップや布巾は所定の所にしまい整理整頓したり電気ポットのお湯は充分か気を配ってくださる。		

事業所名	みんなの家 横浜小机
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの重要性について職員の認識の徹底を図り、その一環として職員全員が各自理念を提出、その中から選んだものを理念として掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周りが畑で人家が無く、日常的な交流は難しいが、自治会のお祭りやケアプラザの催し、散歩の際の地域お方との交流などに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一般の方へは機会がないが、民生委員や自治会長とは交流を通して理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催されている会議では、御家族、ケアプラザ主任ケアマネ、民生委員、自治会長からアドバイスを受け、指摘されたことに対し、改善や新たな取り組みを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険、生活保護に関する問い合わせ、相談など随時行っている。又必要な資料、情報を提供して頂いている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要時は手順を踏み、カンファレンスを開き、コンプライアンスの下行っている。会議を通して、職員が拘束をしないケアの重要性を認識、理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修は度々行われ、全員ではないが参加している。会議で取り上げ、職員全員が日常的に防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があり、順次参加出来る様にしている。その内容を会議などで話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。契約、解約などは家族が御理解頂けるまで丁寧に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月で開催される家族会で様々な意見があり、運営に反映させている。日常的に家族からの相談に対応しており、会議で取り上げて周知、改善を図っている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案箱の設置や上司へのメールで相談窓口を設けている。ホーム内でも意見が反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事課で職員の就業状況を管理している。年2回、人事考課があり職員各自の評価を受けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、多くの職員が参加出来るようシフト調整など工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市のグループホーム連絡会に入り、講習会などで交流を図る機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、職員が本人と面接し、良くお話を伺い納得して入居できるよう努めている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族、本人と話し合う機会を設け、家族の相談に応じ、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の訪問時に良く話し合いをして、必要としている支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事とできない事を見極め、出来る事を大切に一緒に行動するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一度の「一言通信」に本人の様子や家族への連絡事項を記載したり、電話で連絡を取り合っって良い関係を築く努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や外出の機会を大切にしている。友人との外出、家族との電話連絡も支援している。疎遠な家族に対しては一言通信や電話で家族の協力を仰いでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状の軽重に拘らず、楽しめる歌などのレクやおしゃべりの場を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談や要望には応えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	直接聞ける方の希望や意向はカンファレンスで話し合い、ケアプランに反映させ困難な方は日々の様子から把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、本人家族の話から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、カンファレンス会議などで、一人ひとりの状態の把握に努めている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子の中から、課題を見つけ、本人、家族、医師とも話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、申し送りノートなどで、情報を共有し、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	治療院、訪問マッサージの活用、訪問介護などの利用を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの誘致、地域包括センターの利用などで楽しめる生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な情報を家族に提供しかかりつけ医と事業所が信頼できる関係になるよう、本人、家族に対して支援している。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の訪問日に合わせて、利用者の状況を伝え相談できる体制を作っている。利用者に対する適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	支援状況を病院関係者に伝え、病院からの情報も得て本人家族とも話し合い、本人の不安を和らげ、早期退院出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応を説明している。又家族会でも家族の疑問に答える場を作り、ターミナルケアは条件が揃えば可能である事を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力による訓練の他、安全対策委員の研修発表、資料配布などで実践力を身につける努力をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、利用者も一緒に避難訓練を行っている。全体会議時にも資料を配り、意識向上に努めている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時のプライバシーに配慮している。個人の人格、能力に合わせ、安全を確保した上で、プライバシー、プライドを損ねない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉でうまく表現できない方に対しても、思いを汲み取り自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、散歩、レク、手伝いなど無理強いせず、本人の希望に沿って行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	友人と美容院に出かけたり家族と外出がてら散髪される方などを支援している。髭剃り、新しい服の購入なども支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には配膳、下膳食器片付けなどをして頂いている。出来るだけ自力で召し上がれるよう摂取量の少ない方にはふりかけなどの補助食品を用意し、支援している。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食、水分摂取量をチェック表に記入し、少ない時は経口栄養剤などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下、口腔ケアを行っている。支援が必要な利用者には介助を行い、チェック表で歯磨きの確認をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう毎食後の排泄習慣を試みたり、サインを見逃さないように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便をチェックし、水分補給や排泄時の腹部マッサージなどで排便を促し必要時には医師と連絡の上処方薬で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を聞き、無理強いせず気分良く入浴できるような配慮をしている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方には日中の休息をケアプランに取り入れ支援している。夜間の照明や室温、騒音に配慮し入眠前の排泄や声かけで安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から個別の処方薬の説明を受けている。変更などは申し送りノートに記入し、共通理解出来る様にしている。服用後の変化は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴、本人家族の話や意向からその方に合った役割やレクリエーションなどをケアプランに取り入れ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	友人と外出される方、家族と外食される方の支援を行っている。季節のよい時散歩に誘い、時には遠距離の散歩や花見を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える方は限られているが、移動パン屋でパンを選んで買うことは喜ばれている。		

みんなの家 横浜小机

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したい意向や、家族に電話したい意向があれば、出来るよう支援している。個人で携帯電話を使用している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のしつらえや花、観葉植物、絵などで心地よい環境を作るよう努めている。エアコンの調整、テレビの付けはなしにも注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを気の合った同士が過ごせるよう配慮したり、静かに過ごしたい方、人と交流したい方其々が満足できるよう安全に配慮し支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や机、家具家族の写真やぬいぐるみ等家族と相談しながら安らげる居室作りの工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に表示を掲げ居室には表札で識別出来る様にし、各所にコールボタンを設置している。生活しやすい動線を安全性も考慮して確保するようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

みんなの家 横浜小机

作成日

H22年12月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ボランティアの受け入れや地域との交流が充分とはいえない。	地域との更なる連携のため、ボランティアの受け入れや地域との交流の推進を図る。	定期的に地域包括センターを訪れ、地元ボランティアの情報を得る。	3ヶ月 ～6ヶ月
2	18	日常的な外出支援	毎日（天気、体調の良い時）散歩をする。	習慣になるよう生活の時間割りを作る。	1ヶ月 ～2ヶ月
3					
4					
5					